

令和3年3月31日

令和2年度「精神障害者こころのサロン」事業報告

特定非営利活動法人で・らいと

1. 事業内容

「精神障害者こころのサロン事業」は、久御山町在住のこころの健康に不安のある方や引きこもりがちな方を対象とした、安心して過ごせる居場所づくり、社会参加、地域交流の場の提供及び精神障害者の支援者の育成及び活動の場として利用規約に基づいて運営・実施を行った。

当事業は主に公民館和室でのリラックス余暇支援を行い、その際には昼食や団欒、カラオケ、ゲームなどを通して精神障害のある方が他の利用者やスタッフ・ボランティアの方と関わりながら自分のペースで穏やかに過ごす場を提供した。予約不要で気負う事なく行きたいと思った時に気軽に参加出来ることで、家以外での安心できる居場所の提供を行った。

4月・5月は新型コロナウイルス感染拡大の為サロンは休止になったものの、6月からは、①マスクの常時着用、②部屋の喚起、③お互いの席を離して密接を避ける、④手指消毒の徹底、を行いながら開催した。

また、1月22日には毎年恒例の新年会を開催した。新型コロナウイルス対策を行い、飛沫が飛ばないように会話無しで昼食を食べた後は、年始の挨拶やそれぞれの近況報告、新年の抱負などを順に話し、終始和やかな雰囲気で行った。食後のゲーム大会も感染対策を徹底しつつ行い、皆で新年を祝い共に過ごす貴重な機会となった。

今年度の研修事業としては、3月19日に京都府宇治市にある「宇治植物園」と隣接する「レストラン&ガーデン蝶々」での見学研修を行った。新型コロナウイルス感染対策を実施しつつ、屋外での植物園見学とレストランのテラス席で昼食を頂いた。普段外出の機会のない利用者にとっては社会参加、地域交流の貴重な機会となり、ボランティアスタッフにとっては他の社会資源を見学することで障害者支援についての学びを深める機会となった。

2. スタッフ体制

以下のようなスタッフで事業運営を行った。

- ・特定非営利活動法人で・らいと 職員5名
- ・ボランティア 7名

3. 活動場所及び活動内容

活動場所：公民館和室、地域福祉センターさつき苑視聴覚室、久御山町役場コンベンションホール

活動内容：リラックス余暇支援

10：00～12：00 買い出し、事前準備

12：00～15：00 昼食準備、昼食、団欒、カラオケ、ゲーム、片付け、
公民館への報告書提出

15：00～18：00 で・らいと会議室に移動後、精算、日誌記入、反省会等

※祝祭日や文化祭前日など公民館閉館日は第1・3金曜の実施はせず、別の曜日に振り替えるなどして調整を行った。（開所日程と各実施日の参加人数等は別添資料のとおり）

4. サロン休止中の支援内容

2020年4月～5月の期間は新型コロナウイルス感染拡大のため、4月上旬に日本全国に緊急事態宣言が発令され、5月21日に京都・大阪・兵庫の緊急事態宣言が解除されるまでの2か月間はサロンを休止した。それに伴い、サロン休止中も定期的に利用者の方に電話連絡を行い、現在の体調確認と緊急事態宣言による心理的不安の解消に務めた。利用者の声として、「サロンがないと行くところが無くて寂しい」「外に出て行くのが怖い」「この状況ではサロンに集まれないのは仕方がないので、早くサロンに行けるように今は家でじっとしておく」「電話で話を聞いてもらえるだけで嬉しい」などがあつた。

5. サロン再開後の感染対策

2020年6月サロン再開後は、毎回開始時に体温測定と手指消毒ならびに体調についてのヒアリングを行った。密接しないよう会場でのお互いの距離を広くするため、長机を今までよりも離して設置し、机の両端を使用する事で2m以上の距離を確保する事が出来た。常時窓とドアを開け部屋の換気を行い、机や椅子は消毒を行ってから使用した。個包装の食品を軽食として用意する、カラオケをする際もお互いの距離を広く空けてマスクをしたまま歌いマイクも使用ごとに消毒する等、感染対策を徹底しながら開催した。再開当初は慣れない距離や消毒やマスクでの会話に戸惑う様子が見られたものの、次第にスタッフ側も利用者の方も慣れスムーズに感染対策を行う事が出来るようになった。

6. 現状と課題

当事業は、久御山町に住む心の健康に不安のある方や引きこもりがちな方などが安心して利用できる居場所を提供する社会資源である。今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、サロンの休止や再開後の感染対策の徹底等普段とは違う生活様式を取り入れながらの開催となった。感染対策を行いながらのサロンの開催は、当初「まだ外出が不安なので、もう少し状況が落ち着いてから参加する」という利用者の方がいたものの、その後しばらく

すると参加を再開させることが出来た。利用については予約やキャンセルの連絡を不要とすることで参加・不参加に関わる精神的な負担を軽減し、利用促進を図っている。

また長年事業を継続することで長期利用者が増えた。利用当初は、緊張した表情を見せ短時間の利用しか出来ずにいたが、継続した利用を重ねるようになり、今ではリラックスした表情で笑顔を見せ過ごされている。初めての参加者に対してもピアサポーターのように優しく声をかけ安心して過ごせる居場所の提供をスタッフと一緒にしている

さらに年に1回実施する研修を通して、精神障害のある方が地域資源に触れる事で一般就労や事業所・グループホームなどに関心を持つ方も複数おられた。

長年サロンを利用している、ある利用者の方は今まで事業所に通所した事が無かったが、サロンを通じて人とのつながりや自宅以外で過ごす事になれた事で、週一回からの事業所への通所が始まり、今では週二回の通所を目指すようになった。サロンでの定期的な人とのつながりと安心して過ごす事が出来る居場所を提供し続けることで、新しい場所に踏み出すことが出来るようになったと考えられる。

今後の課題として、新型コロナウイルス感染拡大が続き、いまだに終息する見込みが立たない現状において、安心してサロンを利用してもらうためにはどうしていけば良いかを考え、新しい情報や急な事態にも備えて改善を行っていく必要がある。さらに、心の健康に不安を抱く地域住民が潜在的に増えていることが考えられる。その方たちへの情報発信や福祉課・保健師・社会福祉協議会等各関係機関との連携を取り、心の健康の増進やQOLの向上を図っていく。